

第3回新しい学校づくり三好市・東みよし町地域協議会議事録

平成19年11月1日（木）
午後6時30分から午後9時まで
三好高等学校 楓会館

【協議題】 「新しい学校の教育について」

【協 議】

委員

先日は、辻高校・三好高校の見学をさせていただきありがとうございました。辻高校では、コースの特性にあった教育が行われていました。三好高校ではバイオなど最先端の教育が行われていたり、ダチョウの飼育など新しい取り組みがなされていました。山地農場にあった「大地と共に心を耕す」の文字が印象的で、全人教育がなされているのだと感じました。これらも踏まえて協議をしていただけたらと思っています。

本日の協議会では、皆様からいただいたご意見や両校での教育をもとに、新しい学校の教育について事務局から提案されます。「めざす学校像」、「育てたい生徒像」など、新しい学校の教育についてご協議いただくことになっています。

委員

最初に聞きたいことがあります。先日発表があった定員について、脇町・穴吹高校が20名の減、池田・辻・三好高校が15名の減でした。これでどういう教育になっていくのか。校長先生にお尋ねしたいと思います。学級減になる学校もあるのではないかと思います。

委員

池田高校では、本年度215名6クラスであったのが、来年度200名5クラスになります。今年4月より6クラス維持のために、管理職が各中学校に資料を届ける形で配付し、6月の希望者が208名、9月が212名ということで、6クラス維持が出来るかと思っていました。5クラスでは教員が2名減になります。これが3年続くと6名減になります。第1回の協議会資料から見ると、平成27年には159名で4クラスになり、29年には現在から教員が12名減になります。これでは進学態勢を維持することが難しいように感じています。

委員

3年続くと教員6名減になるのですか。辻高校はどうですか。

委員

辻高校は135名の定員ということで学級減にはなりません。しかし、三好地区で中3生徒数が48名少なくなります。美馬地区がさらに少なくなっています。美馬地区からの流入が望めない今、

この状況で何とかやっていかなければと思っています。

委員

三好高校は現在80名。そこから15名減ですので苦しい状況にあります。今回はビジネス類の40名から15名減ということで、ビジネス類が1クラス、生物資源類が2クラスの3クラス規模になっています。生徒数減の中で、三好高校はどう改革していくかという視点でこの改革に臨んでいます。3校同じ15名減でも、意味合いは大きく違ってきます。現場の校長として、生徒数減を乗り切るために、速やかに改革に着手して、新しい学校で、新しい体制でやっていきたいと思っています。15名減は本校にとって厳しい数字です。

委員

9月の進学希望調査で、三好高校は生物資源類29名、ビジネス類27名でした。子どもの希望からも受け皿は考えてもらっていると思います。以前「80名をきったら・・・」ということ聞いたように思うのですが。

委員

入学定員が80名を維持できない状況が2年続いたら、学校の統合基準ということになります。来年、三好高校が80名をきります。統合基準を満たすということで3校を2校にという統合を基本に、本協議会がスタートしました。学校が十分な機能を発揮するために240人規模が適正規模の基準になっています。

委員

池田高校で、教員数が6人減ると今の教育が維持できるでしょうか。

委員

3校とも同じように減ります。三好高校のように普通教科の教員が少ない中でも減ります。一人しかいない理科の教員が講師に変わることになります。小規模校にとって学級減は学校の命にかかわる問題です。

委員

生徒数減が教員減につながり、専門の先生による充実した教育内容ができなくなったり、学校の活力が落ちてくることにつながります。だからこそ再編をどうするかということになります。

委員

今の話を聞くと、三好3校に生徒が集まることを考えなければならないということですね。

委員

池田高校の進学という立場からいうと非常に厳しい状況です。今は英数国が各学年に2名ずついますが、5クラスではそれが難しくなります。さらに4クラスだと生物、地学、日本史、世界史、地理の専門がいなくなります。国公立大学に60名前後入学していますが、これも難しくなるでしょう。5クラスが維持出来なくなると非常に厳しい状態になります。地元の生徒を3校に残し、他からの流入をいかに増やすかを考えて学校経営をしていく必要があります。4クラスでは十分な進学体制がとれなくなり、これまでの生徒層が来なくなる恐れがあります。三好高校と辻高校2校の協議をいただいています。新しい体制ができた頃には、池田高校の進学体制は今の状況では持たないのではないか、新しい体制のもとに考えていかなければならないのではないか、感想として持っています。

委員

三好3校を2校にするということで、3校の問題として議論していかなければならないということです。

委員

他の地域から集まってくる「魅力ある学校」ということが気にかかります。

委員

適正規模にとらわれすぎではないでしょうか。1学年80名を変えない限りは、2030年には、3校で生徒を奪い合っても足りません。全国に先駆けて、徳島県発案の再編計画に取り組んでもらいたいと思います。

委員

池田高校を含めた3校の問題として、また三好地区の子どもをどう増やしていくかを視点の中において考えていかなければならないと思います。美馬地区の高校へは、18年度76名が進学しているという数字はあっていますか。学習意欲が高い生徒が流出しているということはありませんか。そうならば、学習意欲の高い生徒に充分対応できる学校を考えていかなければならないのではないのでしょうか。海部高校の数理科学や、城南高校の応用数理などが参考になるのではないのでしょうか。

委員

平成30年頃には、1校で済むような生徒数になる状況を示されていますが、それぞれの生徒に合う教育をどう組み込んでいくか、池田高校も含めた3校で考えていかなければいけないということですね。

委員

次の機会には中学校の校長先生にもお聞きしたいと思います。

委員

事務局より新しい学校の「めざす学校像」「育てたい生徒像」「特色ある教育」についてご説明いただきました。まず「めざす学校像」「育てたい生徒像」についてご意見をいただきたいと思います。

委員

規模のことも考えてもらいたいと思います。少ないと教育は出来ないのでしょうか。有名大学では20名以内で教育をしています。経済中心の考えでいいのでしょうか。

委員

再編によってそれらをクリアするように考えていこうということですね。

委員

人口減の中、マンツーマン指導くらいの、教員数を減らさない体制作りができないのでしょうか。緻密な教育が出来る規模の検討をしてほしいと思います。

事務局

学校では教科指導だけでなく、様々な教育活動が行われます。その中で1学年80名は必要な数字だと思われます。

委員

1学級40名以内とされているのであって、80名にこだわるのはおかしいのではないのでしょうか。教育は財政的に考えることではないと思います。学生に慕われる学校・先生であることを考えなければならないのではないのでしょうか。

県教育委員会

法律で、本校の最低基準が1学年80名と決められています。クラス編成するときの数字が40名以内ということです。3学年合計240名以下だと教育が難しいとされています。

委員

本当にそれがふさわしいかということを考え直す必要があるのではないのでしょうか。地域の人材を誰が育てるのでしょうか。濃密な教育が出来るように取り組まなければいけないのではないのでしょうか。予算に合わせて学校を減らす事ばかりでは困ります。

委員

いま、子ども達のためにどうあるべきかを考えていると思います。生徒数が半減し、平成34年には246名の中で、7割が普通科、3割が職業科として70名しかいないことになります。高校進学は現実として、どの高校に行きたいかではなく、学力でほとんど決まっているのが現状ではない

でしょうか。本人の努力が大切だと思います。進学をめざす生徒、就職を希望する生徒に自由に学校を選択させてあげられたらいいと思います。こうしたことからすると、総合学科が一番良いのではないかと思います。三好高校と辻高校が一緒になって一つの学校を作ったらいいと思います。池田高校を総合学科にすることは、生徒流出の弊害が大きいと思われますし、辻高校なら地域の利用価値が高く活用できると思います。三好高校には広い農場があり、これからの農業問題を考えても残していかなければならないと思います。15年後どうするかは、三好と美馬を一緒に考えていくべきだと思います。普通科の中でも特色を持たせ、柔軟な道を選ばせてあげるべきだと思います。一つの学校にというのでなく、学校規模だけにとらわれず考えていくべきだと思います。

委員

全校50人足らずの小学校で、地域と共に子どもを育ててきました。小さい学校だからこそ、魅力ある誇りのもてる学校と感じています。高校に通う子どもも、そう感じて欲しいし、そのためには決まりきった教育でなく、三好高校の、自然の中で心を耕す教育を残すべきだと思います。安易に子どもが少ないからとせず、子どもを残していく学校づくりをしてほしいと思います。三好高校出身で、三好郡内で活躍する人が多いですし、池田高校野球部が生徒を集めたこともあります。先生も子どもも地域も、思いを込めた学校づくりが大切だと思います。農業をないがしろにしてほしくないし、そこへ行きたい子育てをしなくてはならないと思っています。辻高校の歴史を大切に残すとともに、農業林業を残しながら、子どもたちに魅力ある教育、学校の姿を作り上げていかなければならないと思います。

委員

来年高校進学を控えた子どもがいます。本人が是非と望むのでなければ、近くの高校に進学して欲しいと思いますが、基本的には自主性に任せています。子どもたちが仕方なく行くのではなく、子どもがやってみたいと思うもの、本当に望んで行く学校へやりたいと思います。

委員

不登校の子どもや障害がある子どもがいますが、そうした子どものためには、小規模であったり、実習を伴う学科であったり、さらには多様なコースの中でコース変更も可能な学科があれば、救われていく子どもが出てくるのではないかと思います。

委員

「めざす学校像」「育てたい生徒像」「特色ある教育」につきまして、その他ご意見ありませんでしょうか。

委員

大きな柱としての、「めざす学校像」「育てたい生徒像」はこれで良いと思います。

委員

ご意見ありがとうございました。事務局には、ただ今協議いたしました内容を参考にし、次回の協議会に再度提出いただきたいと思います。よろしく願いいたします。それではこれより、新しい学校の教育システムについての協議に移りますが、前回委員より要望がありましたので「学科制・コース制について」事務局から参考資料を提供いただいております。資料をもとに説明をいただいた後、委員の皆様のご意見をいただきたいと思います。事務局よろしく願いいたします。

委員

総合学科は個人で履修科目を決めるということになるのでしょうか。

事務局

生徒の希望者数によって、多少調整はあるものの子どもの希望を第一に優先するという事になっています。

委員

農業と商業をミックスして履修できるといわれていましたが、個々に科目や授業を選択できるということでしょうか。

事務局

科目の選択群があると考えていただきたいと思います。たとえば農業で専門性を高めたいなら、農業の選択群の中から農業の科目ばかりを選びます。農業だけでなく、その他の科目も学びたい生徒は他の選択群からも選びます。このような選択は、広く浅く学びたい生徒に向いています。総合学科では、色々な選択が可能となっています。

委員

それは、個々に自由に選択できるということでしょうか。

事務局

学校規模によって異なりますが、学校規模が小さいと、開講できる講座数に制約ができるため、自由度が低くなることが予想されます。

委員

生徒の希望人数が、ある程度そろいかどうかとも問題になるかと思いますが。規模が大きければ可能なのでしょうか。理念としては非常に良いと思います。

委員

系列についてお聞きしたいと思います。

事務局

系列は、英語や国語のように科目の塊と 부탁드립니다。農業系列は農業科目の塊です。総合学科では、数学の好きな子どもは、理数系列からたくさん選択していきます。農業の好きな子どもは、農業系列の中からたくさん選択していきます。どの科目をとっても良いですが、系列の科目をひとまとまりに履修していくと、目的に合った科目を履修することが出来ます。生徒が、目的達成のために何を選択したらいいのか悩んだときに、失敗のない目安を提供できるのが、系列だと思ってください。農業コースのような生徒の集団ではなく、科目の集まりが系列です。

委員

目的が明確であれば選択は有利になると思います。

委員

現実問題として、高一の段階で、明確な目的意識を持って選択ができるのでしょうか。そこにはアドバイスする先生が必要になるのではないのでしょうか。

事務局

原則履修科目「産業社会と人間」の中で、将来のことやライフプランを考えさせたり、系列についての説明を受ける時間を設けています。1年生で週2時間の授業があります。そこで子どもの知識不足を補うようになっています。

委員

先日、すべてコース制に似たものを提言させてもらいました。三好高校農業科の施設設備は、今年希望者が少ないからということで、開講しないようなものではないと思います。最初から林業・農業しっかりした形であることが必要だと考えます。三好高校の施設設備を存続させるこの地域性を押さえておくべきだと思います。

事務局

ご提言のあった1年で一括募集して、2年生からコース制をとるケースも提案させていただきました。それぞれのコースの内容については、次回の協議会で提案させていただきます。

委員

総合学科は良いのですが、林業・農業はある程度人数を取っておかないと先細りになる可能性があると思います。特に林業は必要ですし、良い環境にあると思います。ただいつも思うことは、学んだことが活かされる職場のことです。林業や農業を学んで、そのまま生活していけるのでしょうか。

委員

産業として農業は非常に難しいところにあります。しかし、農業をする人がいないわけではありません。林業をする人がいないわけでもありません。高校を出てそのままその産業に従事することは難しいですが、家を継承し財産を守るときに、収入を他産業で得ながら、農業のノウハウを持っていることは非常に重要であると考えます。徳島で兼業農家は多いです。農業高校が果たす役割はそのようなところにもあると思います。商業を出た子どもたちが、確実に事務系のところに就職できているかというところではない。従来の高校生の就職先が、大学卒に奪われていく現実があります。専門高校で知識を得て家を守っていくということに、大きな意味があるのではないかと思います。

委員

中学生の立場からすれば、選択肢は多いほど良いです。総合学科の場合、農業への希望がいなくなると農業科がなくなるということでしょうか。そうになると、地域の人の願いが叶わなくなると思うのですが。

事務局

全国的にみると、最初は農業2系列を持っていて、1系列となった高校もありますし、そのまま維持している高校もあります。しかしながら総合学科では、生徒の希望が減っていくと開講科目が減少して、農業の専門教員も減ってくることは事実です。維持できるか減少するかについては、双方の可能性ががあります。

委員

総合学科の新野高校と鳴門第一高校についてお聞きしたいと思います。

事務局

新野高校は専門的な農業教育でなく、広く浅く農業を学んでいく傾向にあります。鳴門第一高校は福祉系の資格取得条件に変更があり、福祉系列の科目選択者が減ってきている傾向はありますが、系列の変更はありません。

委員

農業の校長として申し上げます。総合学科は限りなく普通科に近い学科です。新野高校は総合学科であり、農業科ではなくなりました。農業の教員も激減しました。総合学科のスタートは農業学科を農業の系列で編成することでしたが、今は違っています。三好高校の農業教育を総合学科の中で維持することは出来ません。

委員

総合学科が良いと思っていましたが、認識に間違いがあったようです。訂正したいと思います。

委員

商業も農業も希望者が少ない中、看護科は県下で一つしかないため、羽ノ浦校の希望者は多い状況です。希望者は多いのに定員が少ない現状があり、県西部で必要なのではないかと考えているのですがいかがでしょうか。

委員

高校を卒業していないと、中卒では学力的に難しいと思います。三好市医師会准看護学院も、大学卒業の方が多くいますが、高校で看護師養成教育を、となると、かなり高い学力を必要とします。三好病院で准看を受けているので、それ以上に受けるキャパはなく、設置は厳しいと思います。

委員

総合学科では、1年生の時に専門的な勉強をする余裕のない教育課程が組まれてしまっています。農業・商業教育で1年生は大事な時期だと思いますが、それが出来ません。1級専門家を目指す教育には不向きかと思います。辻高校は、普通科の中に情報科学コースがありますが、高い比率で希望する生徒があります。心配することは、学科単位で生徒募集をした場合、普通科志向の中で情報を勉強したいという生徒が、流出していくのではないかとということです。商業教育を普通科の中に組み込んだ形の方がいいのではないかと考えています。

委員

将来起こるであろう、三好・美馬の再編を考えると、美馬には農業教育がないので、三好高校の施設設備はさらに充実させておくべきだろうと考えています。

委員

高校卒業程度認定試験を受ける人のための受け入れを、どこかでできないでしょうか。

県教育委員会

学校へ来にくい子には、通信教育の制度があります。週2回のスクーリングを徳島中央高校で行っています。年齢はさまざまです。遠隔地の子どもたちにはスクーリングを軽減できる方策を考えていますので、まずはそちらを利用してもらいたいと思います。

委員

今回の協議会ではコースの決定というわけにはいきませんが、たくさんのご意見をいただきました。将来をのぞみ、残したい学科がきちんと残るようにしておく必要があるという意見もいただきました。6つの案を提供いただきましたが、どれを採用するかによって、学校の内容が大きく変わってきます。理解を深めていく必要を強く感じます。

委員

三好地域の教育をどうするかについて考える中に、三好3校を視野に入れた上で、三好・辻を考
えて議論したらよいと思います。

委員

熱心なご協議ありがとうございました。

次回の第4回協議会は「設置学科・コース」「教育内容」について協議したいと思います。